

横路福祉社会会報

〒七三七一〇一一三
呉市広横路四丁目一四六
横路福祉社会
編集発行人
神垣 伸司
(0823)7118197

「・・・ひとりごと・・・」

社会福祉法人 横路福祉社会
理事長 神垣 伸司

横路保育所創立71年を迎えた今年度は、新型コロナウイルス感染症の国内感染拡大が続き、ついに緊急事態宣言が全国に発せられる等、コロナ感染症一色の年となった。感染拡大を防止するため、外出自粛が続く社会が閑散とする中、保育所は事業の継続を求められ、社会のセーフティネットとして、いかに必要な施設だということを再認識した。

一方、濃厚接触そのものである保育現場においては、計り知れない感染リスクを抱え保育をするという、とてつもなく不安な日々を送ることとなり、保育士は、いつも以上に自己管理を強化することを求められる等、子どもの安心・安全を確保しつつ、保護者の就労支援を行うという、目に見えない敵と闘う初めての経験であった。

横路保育所は、2年前の大雨(床下浸水)災害時の教訓をもとに、災害を想定した保健衛生用品(マスク、アルコール消毒等)の備蓄をしてきた。しかし、この度の長引く新型コロナウイルス感染症は、想定を超え、いつの間にか備蓄品も枯渇し、その補充もままならない状態に置かれる等、保育の機能崩壊さえ懸念された。

保護者の協力で、使い捨てマスクの購入ができ、また手作りマスクや消毒剤の寄贈をしていただき事なきを得たが、この時の安堵感は、今でも忘れない。宣言期間中は、全ての行事を中止とし、人数が少ないからこそ楽しめる保育に工夫を凝らし、子どもたちを飽きさせない日常の保育に変容させていく様は、保育士の意地を感じさせた。

まだ終息しそえない新型コロナウイルス感染症。これまでのウイルスと同様、人類との共存のみが模索されている。社会情勢を見極めながら、安心・安全な保育を推進できるような備蓄等の準備に万全を尽くしたいと考えている。

最後に、この度、様々な場面でご協力いただいた保護者の皆様に、まず「感謝」、感染拡大防止のために第一線で闘っておられる医療関係者、社会生活を維持するために活躍されている方に「感謝」、そして頑張った保育士にも「感謝」。

・・・「ありがとう」

令和元年度 事業報告書

1. 保育児童数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0才児	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	9	103
1・2才児	41	40	40	40	39	39	40	40	41	40	40	40	480
3才児	29	29	29	29	29	29	29	29	29	28	28	28	345
4才以上児	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	720
計	138	137	137	137	136	137	138	138	139	137	137	137	1,648
開所日数	24	22	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25	290

2. 一時保育利用者数(延べ人数)の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
3才未満児	61	77	93	106	81	91	104	116	103	114	125	101	1,172
3才以上児	1	7	10	14	0	0	0	0	0	0	0	0	32
計	62	84	103	120	81	91	104	116	103	114	125	101	1,204

3. 延長保育利用者数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
(標)利用者	181	181	200	202	193	191	240	173	195	179	204	194	2,333
(短)利用者	14	10	14	14	6	15	46	3	11	5	7	8	153



令和元年度 社会福祉法人 横路福祉社会

単位:円

貸借対照表

令和2年3月31日

科目	金額	科目	金額
流動資産	35,628,530	流動負債	3,741,582
固定資産	151,431,033	固定負債	7,500,800
		基本金	9,325,625
		国庫補助金等特別積立金	31,309,003
		その他の積立金	87,950,000
		次期繰越活動収支差額	47,232,553
計	187,059,563	計	187,059,563

自 平成31年4月1日

収支決算書

至 令和2年3月31日

科目	金額	科目	金額
人件費支出	99,899,682	保育所運営費収入	137,345,502
事業費支出	17,026,320	受取利息配当金収入	59,096
事務費支出	12,312,832	その他の収入	194,520
固定資産取得支出	4,082,374	積立資産取崩収入	53,600
積立預金積立支出	627,000		
当期資金収支差額	3,704,510		
計	137,652,718	計	137,652,718



令和2年度 第1回役員会・評議員会

去る5月28日役員会、6月18日評議員会を開催し、令和元年度の事業内容と事業決算について審議の上承認されました。

詳細(事業内容・財務諸表)はホームページ上で公開していますのでご覧ください。

令和元年度事業報告書

1. 事業の概要

(1) 本年度は、「分け隔てのない保育の実施」を目標に取り組んできた。10月から消費税が8%から10%への変更に伴い、少子化対策として3歳以上の保育料が無償となった。一方、保育料に含まれていた給食費が自己負担となり、その徴収は、各施設の責任となった。これを機に、当園では完全給食(副食に加え主食の提供)の実施に変更した。保育生活の中で、運動、あそび、そして温かい食事を一緒にとることで、子どもの健全な心身の発達や人間形成の基礎を培い、「生きる力」の習得につなげている。

特に、年長児は、自ら日々の役割当番を決め、異年齢児クラスとの体操や自然探索しながらの散歩やマラソン、給食や掃除等のお手伝いを行うことで、思いやる心が醸成されている。また、毎朝、本に向き合う時間を設けることで、自主的に数や字に対して興味を持ちチャレンジすることができた。

絵本の読み聞かせは、特に力を入れており、各クラスとも毎日2回以上、月2回は全園児対象に実施している。また、月1回は、国際大学生ボランティアによる食育に関する絵本会を開催する等、創造性の芽生えと集中力の養成につなげた。一方、保護者に対しては、保育士の推薦する絵本だよりの発行や本の貸し出しを推奨し、家庭内での本と触れ合う機会を増やした。

(2) 情報公開については、積極的な情報公開を行い、公明正大な保育所運営に努めた。また、閲覧図書コーナーでは、義務付けられている公開文章をはじめ、個人情報には留意しながら保育所の自己評価や苦情内容等も公開している。

(2) 健やかな発育・発達のための食生活支援として、管理栄養士による園独自のメニューを組み、出汁は全てイリコや昆布を使った自然素材調理を実施している。年々増加傾向にある食物アレルギー疾患児童に対しては、医師や保護者と管理栄養士・調理員・保育士が連携して子どもの状況を的確に把握するとともに、写真付き除去確認票で確認する等、事故防止対策に努めた。

10月からの給食費自己負担制度開始に伴い、毎月の給食検討委員会で季節感のあるメニューの検討導入に取り組んだ。また、育ちの中での「食」への取り組み状況を保護者に伝え、保育所と家庭が一体となった子育てに力を入れてきた。

「憧れの職業」

保育士 中田 有砂

「大きくなったら何になりたいですか？」の質問に私は「保育所の先生」と小さい頃から口にしていました。

きっかけは私が保育所に通っていた頃、大好きな先生がいたからです。当時の私は、自分の意見や思いがはっきり言えるタイプではありませんでした。しかし、その先生は私の思いをそっと代弁して友だちに伝えてくれるなど、私の思いをくみ取ってくれていた事を今でも覚えています。私もだんだん安心して自分の意見が言えるようになり、次第に大好きな先生みたいになりたいと思うようになりました。

夢を叶えるために、中学校の職場体験では保育所に行き、高校では保育の授業も受けられる学校を選び、そして短大に進学しました。課題や実習に追われる日々を過ごしましたが、保育士になりたいという強い気持ちをもって必死についていき、乗り越えてきました。そして、短大を卒業後に縁あって横路保育所に勤めさせて頂くことになり、今年で三年目となりました。いろんな事に挑戦させて頂ける、困っている事や悩んでいる事に相談にのりアドバイスをくださる先輩方、楽しい事も思うようにいかない事も共に分かち合える一番身近な存在の同期、「私も頑張ろう」と常に刺激をくれる後輩たち、周りの支えがあって今働けていることに感謝の毎日です。そして何よりたくさんの子どもたちに「先生」と呼ばれ、子どもたちの笑顔に癒される毎日がとても楽しいです。大好きな先生がくれた優しさや愛情を、私も子どもたちにとたくさん注いでいけるよう、これから日々精進していきます。



【はんとう棒】



【うんてい】



【いもうえ】



【入園式】

「保育士になって」

保育士 山中 あかり

私が保育士になったきっかけは、小さい子が好きで、幼い頃から親戚の子どもたちと一緒にあそぶ機会が多く、お世話などをしていくうちに子どもに関わる仕事に就きたいと思ったからです。

短大を卒業後、横路保育所に勤めさせて頂くことになりました。一年目は、初めてのことでばかりで何も分からず、とにかく必死な毎日でした。二年目が過ぎても上手いかず『どうしたらいいのか』と悩むこともありましたが、先輩方からアドバイスを頂き、自分一人では気づけなかった事を教えて頂いたり、日々勉強になり、悩みながらも前に進む事ができています。また、子どもたちからもいろいろな『気持ち』をもらっています。最初は、『うんてい』にぶら下がることで精一杯だった子どもが、毎日毎日、手にマメができるほど頑張って練習をしていると、だんだんと渡る距離も増えていき、最後まで渡りきる事ができるようになりました。その姿を近くで見守っていて、私は、子どもがやり遂げた事に感動し、嬉しい気持ちと共に、自分自身も頑張っていけないという気持ちにもなりました。保育士は、子どもたちの成長を近くで見守ることが出来る素敵な職業だな、と改めて思いました。そして、いろいろな人の支えがあるからこそ、今こうして仕事をする事が出来ていると気付くことができました。感謝の気持ちを忘れず『保育士』という素敵な職業に誇りを持ち、子どもたちと一緒に成長していきたいと思えます。